

バベシア症に罹患した生後 5 週齢の子犬に対して アドバコン・プログアニル合剤で治療を試みた 1 例

岩永朋子^{1)†} 田中 功²⁾ 木下あゆみ³⁾ 遠藤泰之¹⁾

- 1) 鹿児島大学共同獣医学部 (〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-24)
- 2) 熊本県 開業 (たくみ動物病院: 〒 869-4215 八代市鏡町下村 1425-1)
- 3) 長崎県 開業 (ありあけペットクリニック: 〒 859-1415 島原市有明町大三東戊 2464-1)



本文はこちら

(2022 年 3 月 18 日受付・2022 年 4 月 22 日受理・2022 年 6 月 15 日公開)

要 約

貧血、血小板減少症、脾腫を呈して来院した 5 週齢のビーグル犬の子犬において、PCR 検査にて *Babesia gibsoni* 由来遺伝子が検出されたため、アドバコン・プログアニル合剤による治療を行った。アドバコンとして 20mg/kg、1 日 2 回、10 日間の投与を行ったところ、副作用の発現はなく貧血の改善が認められた。感染経路を調査したところ、猟犬である症例の母犬からは *B. gibsoni* 由来遺伝子は検出されなかったが、マダニ予防が不完全であったことや、同居犬にバベシア感染症がいたことから、母犬は PCR 検査で偽陰性を示した不顕性感染であった可能性が高く、感染経路は垂直感染が疑われた。本症例は、若齢犬の *B. gibsoni* 感染症の急性発症例に対して、アドバコン・プログアニル合剤で治療を試みたわが国で初めての報告となる。

——キーワード：アドバコン・プログアニル合剤，バベシア・ギブソニ，垂直感染。

----- 日獣会誌 75, e134～e138 (2022)